

2019年1月12日保物シンポジウム実施報告

- 日時：2019年1月12日（土） 13:30－17:00
○場所：東京医療保健大学国立病院機構キャンパス第2別館 2511
<http://www.thcu.ac.jp/access.html>
○参加者数：

正会員 （講演者含む）	23
名誉会員	1
賛助会員	3
共催学会 （内訳）	25
日本放射線安全管理学会	1
日本放射線技術学会	17
日本診療放射線技師会	8
日本放射線看護学会	7
日本医学物理学会	2
非会員 （講演者含まず）	13
合計	65

*共催学会の内訳では、重複者あり。

○アンケート結果：

アンケート回収：39名

	回答数
[1] 本シンポジウムを何で知りましたか [複数回答可]	
① 日本保健物理学会 Newsletter 及びメール	11
② 日本保健物理学会 HP	7
③ 日本放射線安全管理学会からの情報	0
④ 日本放射線技術学会からの情報	6
⑤ 日本診療放射線技師会からの情報	7
⑥ 日本放射線看護学会からの情報	9
⑦ 日本医学物理学会からの情報	1
⑧ その他 友人、知人、上司、紹介 国立病院関東甲信越放射線技師会	7
[2] 今回のシンポジウムについて	
① 良かった	36
② どちらでもない	2
③ 良くなかった	0
④ その他・感想 記録、共有していく線量単位について保物学会の取り組みも必要ではないか	1
[3] 次回のシンポジウムで取り上げてほしいテーマについて [複数回答可]	
① 保健物理学会 専門研究会、常置委員会の活動報告 NORMに関する専門研究会の活動 低線量リスク	3
② ICRP、IAEA、UNSCEARなどの国際的動向 TG等の新たなパブリケーションの検討状況 一般公衆に対する線量限度の各国法令の取り組み状況	7
③ 放射線安全行政の動向 RI法が改定施行されるから 眼の水晶体の被ばく限度の見直し検討の動向 行政の今後の方針や動向について 法令改正等	13
④ 放射線の測定技術 水晶体被ばくの測定方法 DRLは公表されたが測定器をもたない施設での線量評価方法 医療被ばく管理の実例（測定や記録管理について）	7
⑤ 放射線の利用	0
⑥ 放射線の教育 スタッフへの対応 教育する内容について、教育する担当者の選任 等 水晶体の線量限度に対する医療現場教育について	12
⑦ 福島事故関係	3

医療放射性廃棄物を含めた放射性廃棄物の合理的な管理と処分の在り方
避難解除および現状の帰還での被ばく影響

⑧ その他
リスクコミュニケーション

1

[4] その他（ご自由にお書きください）

- 要旨集における各発表の形式（文章・パワーポイント）を統一した方がよいと思います。
- 医療被ばくについて現場での患者対応（被ばく相談）への説明対応のサポートを本学会でも行ってはいかがでしょうか。
- 法改正等について参考になりました。また、現場（医療分野）で困っていること、対応していること等、学会の垣根を越えて話せる場があると良いと思っております。本シンポジウムの指定発言は現場の話が聞けて、本当に良かったです。ありがとうございました。
- 本日は医療法の改正や水晶体被ばくについてタイムリーな講義でありがとうございました。
- 医療とともに検診（スクリーニング）における被ばく実態の把握も必要ではないか。

【プログラム】

日本保健物理学会シンポジウム

医療における放射線防護を考える ～医療被ばくと職業被ばく～

- 日時：2019年1月12日（土） 13:30-17:00
- 場所：東京医療保健大学国立病院機構キャンパス第2別館 2511
<http://www.thcu.ac.jp/access.html>

○趣旨：

近年、医療分野においても放射線利用が進み、誰でも容易に質の高い医療を受ける環境が整えられていますが、同時に被ばくを伴う状況にもあります。医療被ばくでは、被ばくによる「リスク」と医療による「便益」のバランスを考えることが非常に重要です。また、放射線診療を実施する際も、必要以上に過度な被ばくとなることなく適切に実施されるように、診断参考レベルを目安とした条件の最適化が求められています。さらに医療分野における放射線利用では、患者だけでなく放射線装置を取り扱う放射線診療従事者においても、職業被ばくを伴うことからその適切な管理が求められます。

本シンポジウムでは、これからの医療分野における放射線防護にスポットを当てて討論を行います。第一部の講演1では医療放射線防護の国際的な動向について、講演2では小児CT疫学に関する最新の動向について、講演3および4では、患者の被ばく管理および医療従事者の職業被ばくの管理に関する行政の動きについて、それぞれご講演いただきます。第二部では、各講演に対する医療現場の取り組み例を現場の方々からご紹介いただき、患者と医療従事者の放射線防護について総合討論を開催します。

○プログラム：

13:30-13:35 開会挨拶 吉田 浩子（東北大）

【第一部】

座長：甲斐 倫明（大分県立看護大）

13:35-14:00 国際的な医療放射線防護の取り組みと展望
赤羽 恵一（量研機構・放医研）

14:00-14:25 小児CT疫学の最新知見
吉永 信治（広島大）

14:25-14:50 医療被ばくの最適化と患者の線量管理
稲木 杏吏（厚生労働省 医政局 地域医療計画課）

14:50-15:15 医療における職業被ばくの管理
高山 啓（厚生労働省 労働基準局 安全衛生部労働衛生課）

【第二部】

座長：藤淵 俊王（九州大）

15:25-16:50

指定発言 15:25-15:55

1. 患者と従事者の線量管理への対応 五十嵐 隆元（国保旭中央病院）
2. 患者への説明に関する看護師の対応 佐藤 良信（福島県立医大）

3. 医療被ばく相談の経験

桑原 宏 (佐賀関病院)

15:55－16:50 総合討論

16:50－16:55 閉会挨拶

甲斐 倫明 (大分県立看護大)

○主催：一般社団法人 日本保健物理学会

○共催：一般社団法人 日本放射線安全管理学会、公益社団法人 日本放射線技術学会
公益社団法人 日本診療放射線技師会、一般社団法人 日本放射線看護学会

○協賛：公益社団法人 日本医学物理学会

○参加費：正会員（共催学会正会員を含む）2,000 円
学生会員 1,000 円
非会員 4,000 円

○事前申込：参加ご希望の方は、資料準備の都合により 2019 年 1 月 5 日までに、日本保健物理学会事務局 (exec.off@jhps.or.jp) へメールにてお申し込みください。メールには、氏名、所属、会員種別（正会員、学生会員、非会員）を明記してください。なお、当日の参加も受け付けますが、配布資料がない場合がありますので予めご了承ください。

以上